

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	特別研究			担当教員	清水 かおり
jygn348	科目名 (英)	Master's Thesis of Science in Nursing			E-mail	kaoris@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
8単位	学年指定なし	前学期	1~2名	看研6	月曜日・金曜日5限	
1. 授業の概要						
<p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。</p> <p>倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。</p> <p>このクラスの研究分野は、看護教育学分野である。具体的には、看護基礎教育の方法と評価、院内教育の方法と評価などの看護教育学に関連した対象の選定や具体的な研究の進め方、データ収集の方法と処理、分析方法、データの解釈について研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p>						
2. 到達目標						
<p>看護教育学分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。</p> <p>①自己の研究テーマに沿って作成した研究計画に基づき研究を実施できる。</p> <p>②中間発表会や指導教員・副指導教員の指導を踏まえ研究内容をブラッシュアップできる。</p> <p>③看護教育学分野の質向上に貢献できる修士論文を作成する。</p> <p>④修士論文を公開発表会でプレゼンテーションし、最終審査に合格できる。</p>						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
<p>本授業の到達目標は、看護学科のDPと密接に関連している。</p> <p>科目の到達目標を達成することで、以下のDPを身につけることができる。</p> <p>DP1.科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力</p> <p>DP2.地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習力</p> <p>DP3.地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力</p> <p>DP4.グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力</p>						
4. 授業計画と内容						
<p>看護教育学、基盤看護学特論Ⅰ（看護教育学領域）、基盤看護学特論Ⅱ（看護教育学領域）、専門演習（看護教育学）での学習をふまえて以下の課題に取り組む。尚、学生によって進度は異なる。</p> <p>前学期</p> <p>第 1回～第12回 倫理審査申請後、ゼミで指導を受けながら、研究計画に基づいてデータの収集を行う。 データの分析、解釈、考察などを進める。</p> <p>第13回～第15回 中間発表会にむけた準備と中間発表会の実施</p> <p>中間発表会：研究経過および成果の発表の場として、中間発表会を行うため、発表の準備を行なう。発表会で指摘された問題を確認し、課題解決を行う。</p> <p>後学期</p> <p>第 1回～第15回 修士論文作成～提出 9月～12月</p> <p>論文の全体構成、資料・データの分析・整理法、図表の作成、文献検索など、論文作成までの指導を受けながら、論文を完成させ、12月下旬までに、修士論文に学位論文審査願及び論文要旨を添えて提出する。</p> <p>最終試験の実施 1月</p> <p>論文内容の審査および口述試験による最終試験があるため、その準備を行う。</p> <p>論文審査および口述試験を受ける。</p> <p>修士論文の最終提出 2月</p> <p>最終試験で指摘された事項を修正した修士論文を最終提出する。</p> <p>公開発表会 2月</p> <p>研究成果の発表の場として公開発表会があるので、指導教員のもとで、発表内容をまとめ、研究成果を発表する。</p>						
5. テキスト・参考文献						
<p>テキスト：「看護研究 原理と方法」監訳 近藤潤子 医学書院</p> <p>「APA論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院</p> <p>参考文献：研究課題にそって随時提示する。</p>						
6. 準備学習						
特になし						
7. 成績評価の方法						
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に向き合う態度（ルーブリック評価を参考） ・修士論文の作成および口述発表の最終的な完成度（ルーブリック評価を参考） ・修士論文審査および口述試験による最終試験の結果、可否の判定を行う 						
8. 履修の条件						
特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。						
9. その他						
<p>授業後は学修した内容を配付資料およびテキストを用いて振り返り、自己の研究に活かすことが重要である。</p> <p>シラバスは研究の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解ください。</p>						

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	特別研究			担当教員	永田 美和子
jgygn299	科目名 (英)	Master's Thesis of Science in Nursing			E-mail	miwako@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
8単位	学年指定なし	前学期	2人	新421	授業終了後	木6, 7限
1. 授業の概要						
<p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。 倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。</p>						
2. 到達目標						
<p>①自己の研究テーマに沿って作成した研究計画を実施できる。 ②高齢者看護学領域の質向上に貢献できる修士論文を作成する。 ③修士論文を公開発表会でプレゼンテーションし、最終審査に合格できる。</p>						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
<p>DPの以下の内容に到達できるように討議を中心として学修する内容である。 1.科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 2.地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習能力 3.地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し多職種と協働し看護を実践する能力 4.グローバルな視点で、看護の役割を創造する能力</p>						
4. 授業計画と内容						
前期						
第 1週～第12週 倫理審査申請後、ゼミで指導を受けながら、研究計画に基づいて、データの収集を行う。データの分析、解釈、考察などを進める。						
第13週～第15週 中間発表会にむけた準備と中間発表会の実施						
9月中間発表会						
9月に研究経過および成果の発表の場として、中間発表会を行うため、発表の準備を行なう。発表会で指摘された問題を確認し、課題解決を行う。						
後期						
第 1週～第15週 修士論文作成～提出 9月～12月						
論文の全体構成、資料・データの分析・整理法、図表の作成、文献検索など、論文作成までの指導を受けながら、論文を完成させ、12月下旬までに、修士論文に学位論文審査願及び論文要旨を添えて提出する。						
最終試験の実施 1月						
論文内容の審査および口述試験による最終試験があるため、その準備を行う。						
論文審査および口述試験を受ける。						
修士論文の最終提出 2月						
最終試験で指摘された事項を修正した修士論文を最終提出する。						
公開発表会 2月						
研究成果の発表の場として公開発表会があるので、指導教員のもとで、発表内容をまとめ、研究成果を発表する。						
5. テキスト・参考文献						
テキスト： 「バーンズ&グローブ 看護研究入門 第7班」黒田裕子、中木高夫、逸見功監修						
「APA論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院						
参考文献： 随時提示する						
6. 準備学習						
・修士論文に必要な事前準備を十分にして授業に臨むこと。						
7. 成績評価の方法						
修士論文審査および口述試験による最終試験の結果、合否の判定を行う						
8. 履修の条件						
特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。						
9. その他						
自立して修士論文が作成できるように、事前準備をして臨むこと。						

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	特別研究			担当教員	田場 真由美
jgygn313	科目名 (英)	Master's Thesis of Science in Nursing			E-mail	m.tabata@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
8単位	学年指定なし	前学期	1～2	看護研究室 15	月曜日2限目、火曜日、2限目	木曜日：3限目、4限目
1. 授業の概要						
<p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。 倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表を行ない、その後、論文を作成し、公开发表のプレゼンテーション作成や最終審査の対応を体験し学びを深める。</p> <p>このクラスの研究分野は公衆衛生看護学分野であり、公衆衛生における健康課題や健康増進、保健師の現任教育および家族支援などの公衆衛生看護学に関連した対象の選定や具体的な研究の進め方、データ収集の方法と処理、分析方法、データの解釈について研究指導を受け、修士論文を作成していく。</p>						
2. 到達目標						
公衆衛生看護領域の研究課題に関する研究計画書に基づき研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
<p>授業内容と関連が強いDP</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性にに基づいた研究能力 2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習力 3. 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力 4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力 						
4. 授業計画と内容						
公衆衛生看護学特論Ⅰと公衆衛生看護学特論Ⅱ，専門演習(公衆衛生看護学)での学習を踏まえて以下の課題に取り組む。(学生により進度は異なる)						
<p>※1 授業日程は時間割確定後に変更する可能性があります。 ※2 資料や課題はこれまで通りに、teamsとメールを活用し学生へ電子資料を配布します。</p> <p>前期 第1回～第30回</p> <ol style="list-style-type: none"> ①フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。 ②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。 ③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。 <p>後期 第31回～第60回</p> <ol style="list-style-type: none"> ④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。 ⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。 <p>修士論文は2月29日までに、学位論文審査願及び論文要旨を添えて、指導教員を経て研究科長に提出する。</p>						
5. テキスト・参考文献						
<p>D,Fボーリット&C,Tベック、近藤潤子(監訳)：看護研究 原理と方法 第2版,医学書院,2016. A P A 江藤裕之他訳：APA論文作成マニュアル,医学書院,2004. 市原清志：バイオサイエンスの統計学 南江堂,1990. 安田裕子 サイトウタツヤ：EMでわかる人生の経路 質的研究の新展開,誠信書房,2012.</p> <p>参考文献：前田樹海,江藤裕之：APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール,医学書院,2017.</p>						
6. 準備学習						
講義課題を作成し、必要時資料を作成し講義に臨む						
7. 成績評価の方法						
データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。						
8. 履修の条件						
特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。						
9. その他						
特になし						

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	特別研究			担当教員	大城 凌子
jgygn327	科目名 (英)	Master's Thesis of Science in Nursing			E-mail	ryouko@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
8単位	学年指定なし	前学期	2	看研13	火曜日・木曜日7限	木曜日 6限 - 7限
1. 授業の概要						
<p>専門演習で作成した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。</p> <p>在宅看護学分野では、主に在宅ターミナルや家族への援助を含めたコミュニティケアに関する研究について、フィールドワークや面接調査などによる研究手法を主体として研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p>						
2. 到達目標						
<p>①研究テーマに沿って作成した研究計画に基づき、研究を遂行する</p> <p>②在宅看護の質の向上に寄与できる修士論文を作成する</p> <p>③修士論文を公開発表会でプレゼンテーションし、最終審査に合格できる</p>						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
<p>本科目は、以下の研究科DPと密接に関連する</p> <p>DP 1) 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力を修得する</p> <p>DP 2) 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習力を養う</p> <p>DP 3) 地域の特性を踏まえ、保健医療のニーズを分析し多職種と協働し、看護を実践する能力を修得する</p> <p>DP 4) グローバルな視点で看護の役割を創造する能力を養う</p>						
4. 授業計画と内容						
在宅看護学特論Ⅰ, 在宅看護学特論Ⅱ, 専門演習(在宅看護学)での学習をふまえて以下の課題に取り組む。						
前期 第1週～第15週						
<p>①倫理審査申請後、ゼミで指導を受けながら、研究計画に基づいて、データ収集を行い、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。</p> <p>②データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。</p> <p>③中間発表会に向けた準備を行い、これまでの研究成果について整理し、9月に中間発表を行う。発表会での指摘事項について確認し、課題を解決する</p>						
後期 第1週～第15週						
<p>④12月の提出期限までに、一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を完成させ、学位論文審査願および論文要旨を添えて提出する</p> <p>⑤1月の論文審査及び口述試験の準備を行い、論文審査及び口述試験を受ける</p> <p>⑥2月の最終提出までに論文審査における指摘事項を修正し、最終論文を完成させ提出する</p> <p>⑦2月の公開発表会で、研究内容および研究成果について発表し、質疑へ対応する。</p>						
5. テキスト・参考文献						
<p>「バーンズ&グローブ 看護研究入門 第7班」 黒田裕子、中木高夫、逸見功 監訳</p> <p>「APA論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院</p> <p>参考文献：随時提示する</p>						
6. 準備学習						
研究計画に基づいて主体的に取り組む						
7. 成績評価の方法						
修士論文審査及び口述試験による最終試験の結果、合否の判定を行う						
8. 履修の条件						
特別研究以外の終了要件の履修単位が認定されているか、同時履修中であること。						
9. その他						
なし						

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	特別研究			担当教員	玉井 なおみ
jgygn334	科目名 (英)	Master's Thesis of Science in Nursing			E-mail	n.tamai@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
8単位	学年指定なし	前学期	1~2	看研5	火4限・金7限	火5・6限
1. 授業の概要						
<p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。 倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表を行う。その後、論文を作成し、公开发表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。 このクラスの研究分野は、がん看護学分野である。がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、対象者の選定や具体的な研究の進め方、データ収集の方法と処理、分析方法、データの解釈について研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p>						
2. 到達目標						
がん看護学分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
<p>本授業は、看護学科の学位プログラムのDPに従い下記について育成する。</p> <p>DP1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 DP2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探究する生涯学習力 DP3. 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と共同し看護を実践する能力 DP4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力</p>						
4. 授業計画と内容						
臨床看護学特論Ⅰ（がん看護領域）、臨床看護学特論Ⅱ（がん看護領域）、専門演習（がん看護学）での学習を踏まえて以下の課題に取り組む。						
<p>前学期 第1週～第15週</p> <p>①フィールドの開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。 ②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。 ③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイズを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。</p> <p>後学期 第1週～第15週</p> <p>①分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。 ②修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。</p>						
5. テキスト・参考文献						
<p>テキスト：研究課題にそって随時提示する。 参考文献：研究課題にそって随時提示する。</p>						
6. 準備学習						
毎回、課題を提示するので、次回までに準備すること。						
7. 成績評価の方法						
成績評価の方法：データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。						
8. 履修の条件						
特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。						
9. その他						
<p>授業後は学修した内容を配付資料およびテキストを用いて振り返り、自己の研究に活かすことが重要である。 シラバスは研究の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解ください。</p>						

UNIVERSAL PASSPORT RX

授業コード	科目名	特別研究			担当教員	花城和彦
jgygn330	科目名 (英)	Master's Thesis of Science in Nursing			E-mail	ka.hanashiro@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	時間割
8単位	学年指定なし	前学期	1	研究棟429	火曜日・木曜日 7限	
1. 授業の概要						
<p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。 倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。 病態生理学分野の特別研究では、主として細胞を用いた病態の解明や培養液中の物質濃度測定を通しての病態理解について、実験による研究手法を主体に研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p>						
2. 到達目標						
病態生理学分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。						
3. ディプロマ・ポリシー (DP) との関連性						
<p>科目と関連の深いDP</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的思考と倫理的・文化的感受性に基づいた研究能力 2. 地域社会や看護の課題に取り組み、看護学の専門性を探求する生涯学習力 3. 地域の特性を踏まえ保健医療ニーズを分析し、多職種と協働し看護を実践する能力 4. グローバルな視野で、看護の役割を創造する能力 						
4. 授業計画と内容						
<p>病態生理学, 臨床看護学特論Ⅱ (病態生理学領域), 専門演習 (病態生理学) での学習をふまえて以下の課題に取り組む。</p> <p>前期 第1週～第15週:</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実験に必要な技術の習得: 細胞培養法、タンパク質化学、核酸分析などの基礎的な知識と技術を習得する。 ②データ収集の実施: 研究計画に基づき実験を実施し、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。 ③データ分析の実施: 指導教員のスーパーバイズを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。 ④中間発表に向けた準備を進め、中間発表からのフィードバックを受けて課題を解決する。 <p>後期 第1週～第15週:</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑤分析結果の考察: 分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。 ⑥修士論文の作成: 一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。 						
5. テキスト・参考文献						
<p>テキスト: 研究課題にそって随時提示する。 参考文献: 研究課題にそって随時提示する。</p>						
6. 準備学習						
日頃から研究テーマに沿った論文 (英文、和文を問わず) を読み、研究方法に関してアップデートしておくこと。実験結果を考察し、次の実験計画を立てる習慣を身につけること。						
7. 成績評価の方法						
データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度をルーブリックを活用して、総合的に評価する。						
8. 履修の条件						
特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。						
9. その他						
特になし						